

道志地区

(山梨県道志村)

- 計 画 期 間 平成 19 年度～平成 23 年度
- 面 積 980ha
- 交付対象事業費 764 百万円
- 村人口 2,051 人 (地区内人口 2,051 人)

ポイント 防災性・安全性・医療体制の充実

地区概要 防災・安全・医療体制の充実を図り、地域住民の「安心・安全な暮らし」を創出する。

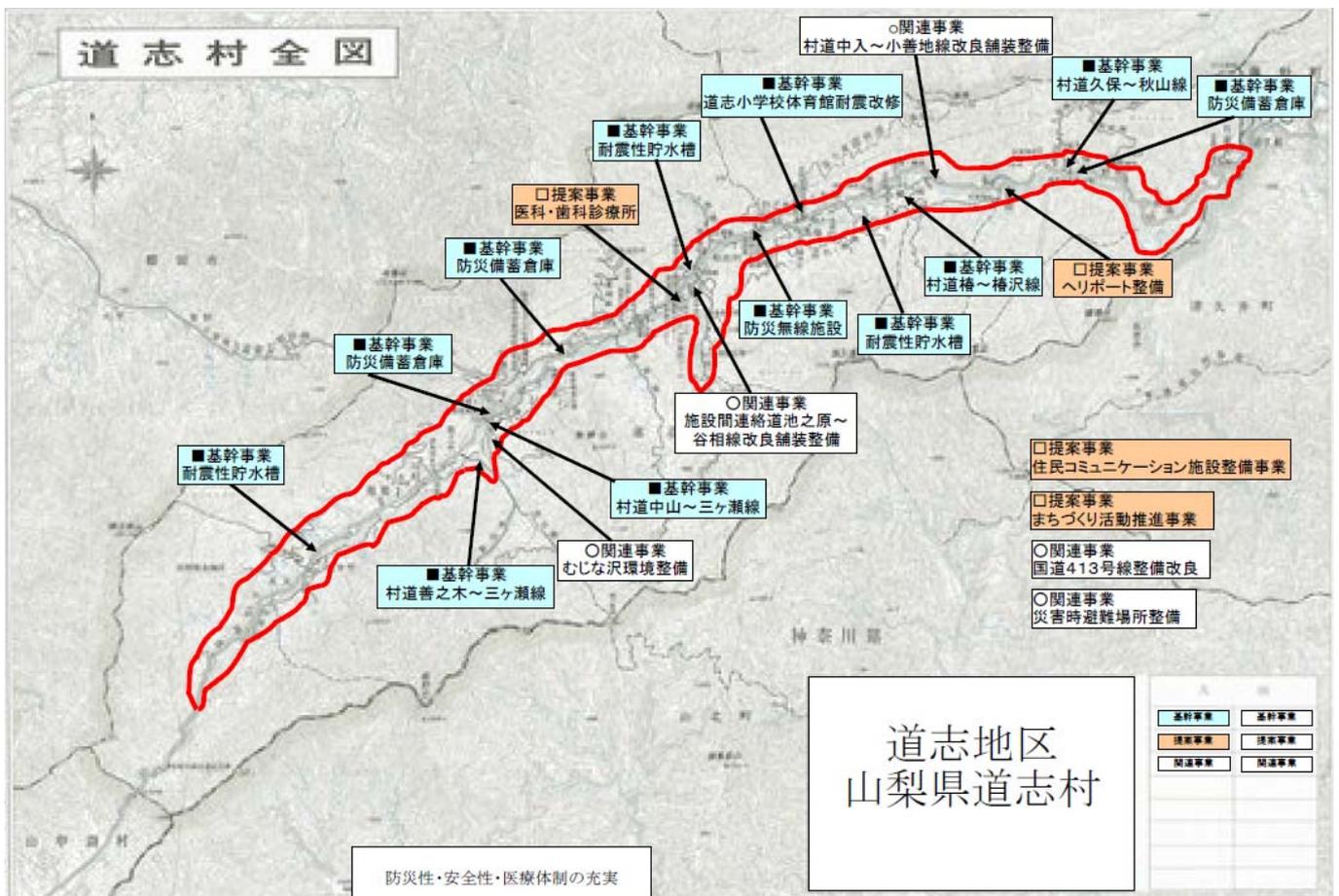
目 標 快適で安心して暮らせる里づくり

指 標 防災施設、医療体制の充実により住みやすさの満足度。観光施設周辺道路網整備による移動時間。観光客に対して安心・安全を提供することによる観光交流人口の数。

項 目	現況値 (年)	→	見込み値 (年)
住みやすさの満足度	57.2% (H18)	→	60.0% (H23)
生活道路網の移動時間	8 分 (H18)	→	7 分 (H23)
観光交流人口の数	110 万人 (H18)	→	111 万人 (H23)

事業内容

- 基幹事業 (519 百万円) → 道路 4 路線 (幅員 5m、延長 1,460m)、防災無線施設 (親局 1 箇所、子局 43 箇所)、耐震性貯水槽 (60t 4 箇所)、防災備蓄倉庫 (3 箇所)、小学校体育館耐震改修 (769 m²)、ヘリポート (1 箇所 625 m²)
- 提案事業 (245 百万円) → 医科・歯科診療所 (412.79 m²)、住民コミュニケーション施設 (600 戸) まちづくり活動推進事業



地区の現況と課題

道志地区は、山梨県の東南端に位置し、帯状の細長い形をした山間地です。地区住民は山間地に位置するため災害時に不安がある。快適で安心して暮らせる里づくりを推進するためには、地域における防災性・安全性及び医療体制の充実と住環境の整備が課題である。

提案事業の特徴

医療施設整備

・村で唯一の医療機関である村営診療所を医科、歯科統合し最新の医療機器を備え、第一次医療の充実を図る。

住民コミュニケーション施設整備

・各戸に光ケーブルを引込、地域情報通信基盤整備事業でIP告知端末機(テレビ電話付)を設置することにより、村からの情報提供、住民間のコミュニケーションの推進を図る。

まちづくり活動の推進に関する事業

・村づくり経営の創出を行うため、地区内の住民と協同で観光施設の活用、観光資源の発掘等を行い、地域経営の推進を図るため、村づくり調査研究を行う。

計画策定プロセス

「いきいきふれあいトーク」の開催

・道志村総合計画策定に伴う村民アンケート結果や道志村総合計画基本構想の説明を行い、都市再生整備計画策定についての意見を聞いた。

道志村国民健康保険運営協議会による医療施設の検討

・利便性、医療機器等について検討した結果、医科、歯科診療所を統合、最新の医療機器を備えることにより第一次医療の充実を図ることとなった。

道志村長 大田昌博のコメント

道志村道志地区は山間地区のため、住民は防災対策、医療体制に対する不安が高い。まちづくり交付金により道路整備、防災施設整備、医療施設整備等を行い住民の安心安全な住環境づくりが出来た。今後も関連事業等を行い快適で安心して暮らせる里づくりを目指します。

道志村国民健康保険運営協議会長のコメント

医療体制の充実を図るため診療所施設整備の検討を道志村国民健康保険運営協議会において行い、住民参加のもと基本計画の作成ができた。結果、福祉センター隣接地に医科・歯科診療所を統合して建設し最新の医療機器を備えることにより第一次医療の充実を図ることとなった。診療所施設の完成により地域住民及び観光客に安心安全を提供できる。

道志村国民健康保険運営協議会長 湯川六昭

地域住民のコメント

過疎化そして少子高齢化が進み、小さな村の住民は生活環境に不安がありました。今回、村民の意見を聞きながらまちづくり交付金で医科歯科医療整備、防災無線整備、ヘリポート整備など様々な整備が行われ大変喜んでます。まちづくり交付金のような事業が地方にとって本当に助かります。今後もこのような事業を活用し、地域にあったまちづくりを行います。

長幡地区地域振興委員会長 杉本秀明

▼道志地区



▼医療施設【医科・歯科診療所】



▼住民コミュニケーション施設



▼ヘリポート



▼いきいきふれあいトーク

